

## 1. 分類コード別に垂直シフト表示

表示メニューの垂直シフト表示に「分類コード指定」を追加しました。  
以下、操作説明書からの抜粋です。

- 垂直シフト表示

選択している要素全体を一時的に上方に表示します。要素が重なっている場合、確認するために要素をずらして表示するための機能です。メニューで指定した距離だけ情報に移動表示します。繰り返すと、その分上方に表示が移動します。多数の要素が重なっているケースがあるので、複数の要素が垂直シフト表示できます。[全解除]メニューですべての要素の垂直シフト表示を解除します。重なりの確認が済んだら、このメニューで解除してください。表示をシフトするだけで、要素が持っているZ値は変化しないので、安心してシフト表示ができます。ツールバーのボタンも同様です。

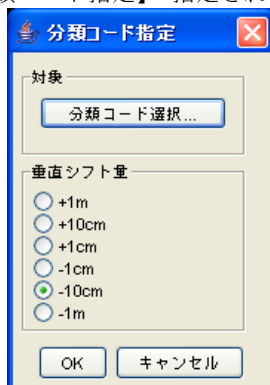


【+1cm】、【-1cm】：1cm だけ表示位置を上下します。

【+10cm】、【-10cm】：10cm だけ表示位置を上下します。

【+1m】、【-1m】：1m だけ表示位置を上下します。

【分類コード指定】：指定された分類コードのすべての要素を垂直シフト表示します。



全解除：すべての要素の垂直シフト表示を解除します。

## 2. DXF からのコンバートで色番号に対応

DXF から DM へのコンバートで、レイヤー名とエンティティの色番号の組に対して、分類コード、図形区分、間断区分を表形式で指定できるようにしました。

以下、操作説明書からの抜粋です。

### 【レイヤーと分類コード・図形区分・間断区分】

CSV ファイルでレイヤー名と分類コード・図形区分・間断区分の対応を指定します。

次のようなルールで CSV ファイルが作られているものとします。

列	型	内容
1	文字列	DXF ファイルのレイヤー名 最初の文字がカンマ(,)の場合、コメント行とします。
2	整数	分類コード(0 から 9999)まで
3	整数	図形区分(0 から 99 まで)

4	整数	間断区分(0から9まで)
---	----	--------------

例

711100, 7101, 0, 1
711200, 7102, 0, 1
計曲線, 7101, 0, 0
主曲線, 7102, 0, 0

このファイルが指定されている場合、該当するレイヤーについて、DXFのエンティティをDMの要素に変換します。  
このファイルの中に、該当するレイヤー名がない場合、次のルールに従って変換します。

また、レイヤー名とエンティティの色番号で対応する分類コード・図形区分・間断区分を指定することができます。この場合、CSVファイルの最初の行に「LAYER,COLOR,」のヘッダーを置いて、2行目からデータを置いてください。CSVファイルの2行目以降は次のようになります。

列	型	内容
1	文字列	DXFファイルのレイヤー名 最初の文字がカンマ(,)の場合、コメント行とします。
2	文字列	1から256までの色番号あるいは以下の文字列 “red”, “yellow”, “green”, “cyan”, “blue”, “magenta”, “white” エンティティの色がレイヤーの色に従う場合(ByLayer)は、256を指定します。
3	整数	分類コード(0から9999)まで
4	整数	図形区分(0から99)まで
5	整数	間断区分(0から9)まで

例

```
LAYER,COLOR,,,
7,green,7101,0,0,
5,red,7102,0,0,
CONSTRUCTION_CLASS,blue,3001,0,0,
CONSTRUCTION_CLASS,yellow,2103,0,0,
CONSTRUCTION_CLASS,cyan,2101,0,0,
CONSTRUCTION_CLASS,red,6302,0,0,
CONSTRUCTION_CLASS,white,6102,
```

### 3. インデックスファイル作成の修正

DMファイルからインデックスファイルを作成する際に、DMファイルの数が10の倍数の場合、レコード数の計算に誤り、エラーメッセージを出して、インデックスファイルが作成できない問題を修正しました。